

平成22年度第1回愛知県周産期医療協議会

議 事 要 約

日時：平成22年6月4日（金） 午後3時から午後5時

場所：名古屋第一赤十字病院 会議室1・2

委員

出席者：石川委員、石田委員、一木委員、岩田委員、岡田（節）委員、小口委員、可世木委員、加藤委員、木村委員、倉内委員、小山委員、榊原委員、柴田（和）委員、柴田（金）委員、志水委員、鈴木委員、寺澤委員、西村委員、早川（博）委員、柵木委員、松澤委員、森川委員、山崎委員、山田委員

欠席者：岩佐委員、上村委員、岡田（由）委員、田中委員、二村委員

事務局

出席者：愛知県健康福祉部医務国保課主幹（救急・周産期）、名古屋第一赤十字病院小児保健科部長、名古屋逓信病院産婦人科（コロニー中央病院産婦人科）

欠席者：愛知県健康福祉部医務国保課長

オブザーバー

出席者：中島先生、山本先生、家田先生、藤巻先生、河井先生、長井先生、福田先生、早川（昌）先生、篠原先生（代理 木下先生）、加藤先生、大野先生、佐橋先生、樋口先生

欠席者：鈴森先生、松原先生、多田先生

司会者：名古屋第一赤十字病院小児保健科部長

議長：石川会長

1 柴田技監あいさつ

2 新任委員・オブザーバー・事務局紹介あいさつ
西村委員・樋口オブザーバー・犬塚事務局あいさつ

3 会長、副会長選出
会長：石川委員 副会長：山崎（俊）委員

4 議事

（1）平成22年度愛知県周産期医療情報システムについて

同システムについては、名古屋大学の杉浦先生にお願いして進めていただいているところであるが、進捗状況について、事務局より報告する。

実証実験について

- ・ 受け入れ側18施設に36台配布済みであるが、まだ、使い方が難しいということで実証実験は始まっていない。あと、愛知県医務国保課に1台配布予定であることと、送り出し施設へは34施設中14施設に配布済みであるが、受入施設の準備が整い次第配布する予定。実証実験前において操作になれる必要があると考えている。

医療情報システムについて

- ・ アイフォンの応需情報システムについて、予算、ソフトバンクとの契約料であるが、事務手数料はかからず1台あたり月額5,713円(パケットし放題)年間2,536,572円で今年度は8月1日からの契約を予定しているため8か月分1,691,048円となっている。
- ・ 現在使用している端末は実証実験用なので、8月になると番号が変わるということをご承知おき願いたい。
- ・ ホームページについては、5月31日をもってNTTデータとの契約を解除し、移管作業中。また、ほぼ同じホームページを作成予定で、予算は200万円程度で入札契約予定である。
- ・ 応需情報については 아이폰上、ホームページ上とも閲覧できるようにする。
- ・ 送り出し施設への説明については、5月29日の愛知県産婦人科医会総会で紹介していただき、また、6月12日には名古屋第一赤十字病院専門相談研修会として説明会を開催予定である。
- ・ NTTデータとの契約を解除したことにより施設メールアドレスが使用不能となった。については、事務局宛に個人のアドレスでも施設のアドレスでもどちらでも構わないので、連絡をいただきたい。
- ・ ホームページ上での応需情報の医療関係者への公開は従来通りとすること、また、消防救急への 아이폰によるシステムの導入はしばらくペンディングとする。
- ・ 予算のまとめについては、ご覧のとおりであるが、ソフトバンク以外への通話等で発生した通話料はこれまでどおり各病院負担でお願いしたい。

【質疑応答】

- ・ 実証実験用で受け取っている携帯端末で搬送連絡で使用してしまっているが。
問題は無い。現在配布している携帯端末にかかる費用は、ソフトバンクに負担をお願いしている。しかし、海外への通話はご遠慮願いたい。
- ・ NTTデータとの契約を解除したとのことであるが、インターネットが繋がらないことは確認しているが、ISDN等の回線も使用不可能なのか？
使用不可能である。
- ・ FAX電話も回収となるのか。
そのとおりである。
- ・ 8月1日からの話は、地域毎に区切って行う話があったと思うが、そういうことでよいか。
基本的な考え方としては、従来から応需していただいているところに打診していただき、受入が出来ない時に全県下に打ち出すということをお願いしたい。
- ・ 7月31日までは34施設プラス受入医療機関18施設で実証実験を行い、8月1日から全県下で行うということによいか。
そのとおりである。
- ・ 県下に普及させたいという考えは良いと思うが、普及は無理だと思う。産科だけの開業医の先生にメリットは無いと思う。従来の応需情報システムがあまり活用されなかった原因はどこにあるのかと言うのを検証することが必要ではないか。送られてきた携帯端末を返却した施設があると聞いているが。そういった事実は、事務局として確認していない。

名古屋大学 杉浦准教授からの説明

- ・ こちらにも帰ってきたという事実はない。紛失となるとまずいので確認する必要がある。

- ・ アイフォンを購入しない場合、普通の携帯端末からの入力等は設定すれば可能である。やり方が、アイフォンと同じように簡単ではないので難しいかもしれないが、可能である。
- ・ 開業医の先生方への配布はそこまでの予算が無いので、負担していただく。
- ・ 現在の流れとしては、実証実験を7月末まで行い、その結果を検証することなくそのまま8月1日に移行することが決まっている。結果の検証が必要ではないか。普及が目的だと思うが、開業医の先生方への普及は難しいと思う。
努力して、協力してもらって、普及したい。みんなにいいシステムだと考えている。
- ・ コンピュータのシステムもなかなかいいシステムだったと思うが、更新される先生があまりいなかった。やっぱり実証実験をやって、うまくいかなかったことを検証すべきだと思う。
今年度の調査研究事業となっているので、杉浦先生から報告をお願いします。

名古屋大学 杉浦准教授からの調査研究事業としての報告

- ・ 皆さんのお手元に資料があると思うが、患者を送った、送らないということではないが既に実際に操作してみたの实验を始めている。そこでの改善点はスリーステップぐらいで送信できるように考えているところである。画面については、携帯の画面が小さく実際に触ってみると、どこか別のところを触ってしまうという意見があった。こう広げてもらうと大きくなるのであるが、最初から大きい絵が出るように改善中である。アイフォンについては、インターフェースを追加することは容易にできる。
- ・ 現在、意見をいただいたうえで簡単に操作できるように変更している。ボタン一つでメールを選べるようにしている。受けることが可能であれば可能とメールを送信する。
- ・ アイフォン画面で下に4つのボタンがあるが、そのうちの専用ボタンを一つを押すと、搬送要請がありその受入結果について一覧で見ることができる。未解決のものを選ぶと何処が受け入れられるのかも確認できる。こういった具合に救急の端末で行っていたことが、この携帯端末で行うことができる。実際に簡単に操作できるように修正を加えている。このシステムに参加できるように考えているのでこのままだと参加できないという方からのご意見を聞くようにしている。
- ・ 実証実験からこのまま進めてしまってもいいのかと言う意見が出ているが、少なくとも後退することはない。皆さんが使われていた費用の半分での運用を考えているので、デメリットは何処にあるのかと考えている。

【質疑応答】

- ・ 電波の入りが悪いが何処に連絡すればいいのか。
そのことについては、今年ソフトバンクが電波張りの年としているので、こちらに言っていれば行かせる。これは、ソフトバンクの会社としての方向性のものである。建物の中についても対応できると思う。
- ・ 年に事象が数件しかないようなクリニックの代わりに、受入側病院だとかが代わりにメールを打ってあげるといのはどうか。件数が少ない中で操作を覚えるのは大変なのではないか。詳細は電話連絡するということで。開業医の先生方に買っていただくのは難しいのではないかと、反対するというわけではないけれど、運用面で難しいと思う。
- ・ 開業医の先生に持っていただくというよりは、コーディネーターの方に持っていただき、受け入れ先を探していただくというほうがよいのではないかと。

その場合のコーディネーターの人件費はどうするか。

- ・ それは、この日はその役割をこの病院とこの病院が担うというように当番制にすればどうか。
- ・ 産婦人科医会では交換手を介さずに直接連絡もできるという側面も広報した。
- ・ 自分の携帯電話でもできるのではないか。

できる。

- ・ メールでなくて直接電話する人もいるのではないか。
- ・ 施設の電話番号リストは配られるのか。

配るといふか、携帯端末を配った段階で、その中に登録されている。 아이폰でなくても既にもっている携帯でも対応可能だが、そういう施設が多数の場合どのように対応するのが課題である。

- ・ 例えば尾張の奥の方からの依頼については受入が出来ないのだが、手術中等いつも携行できるかという出来ない時もあり、いつも反応しなくてはいけないとなると少し厳しい。

受入れる意思が無いのであれば、無視すればよく、反応する必要はない。

- ・ 豊橋の事例においては、浜松が近いからといって聖隷浜松に送られたことがあり、愛知県の場合は愛知県で面度を見て欲しいと話があった。広域搬送のことも視野にいれなくてはならない。
- ・ 現在実証実験はやっているのか。実証実験の結果を検証しないのか。

尾張で実証実験を行っている。メールの送信を行っており、実証実験の検証を行っていると解釈している。

患者の搬送を実際に行うことは困難なので、テスト発信を行い、そのうえで意見をいただきソフトの改良を行っている。使いやすい内容に直している最中である。

- ・ 8月1日からの全県下での運用は決まっているのか。

そのとおりである。

- ・ それは広報してあるのか。

この間の産婦人科医会ではそのように話をした。

- ・ 愛知県の産婦人科医会としては、こんなに急速に進めるとは考えていなかった。実証実験の結果で、最初から参加する施設がどれくらいあるのか、しない施設がどれくらいあるのかというのを把握してから運用したほうが良いのでは。自分のパソコンからできるわけだから、年に数件しかない所が 아이폰を持つとなると、月に5,713円といえども年間数万円になるので負担が大きいので、件数の少ない所はパソコンで、多い所は 아이폰にしたらどうか。完全に 아이폰で行うというのは無理しないほうが良いのではないかと思うがどうか。

受け側は 아이폰が必須という認識でいた。少々画面が大きくないといけないという観点から。送る側は 아이폰でなくてもできるように作ってある。ただ、 아이폰のほう使いやすいので普及のことを考えて 아이폰としているのではないか。さきほど言ったようにパソコンでも、携帯でも対応できるかと思うが一つ一つそのための対応をしないといけないので、普及させるうえでは 아이폰のほう簡単である。

- ・ 開業医にやらせてしまうと出来ない人もいると思うので、選択肢を広げていつもお願いしている所に電話して駄目だったので、コーディネーターのところへ連絡するようにしたらどうか。
- ・ やはりコーディネーターに 아이폰を使ってもらうことにしたらどうか。その確保に費用をかけて、協議会としてもフォローする必要があると思う。

コーディネーターを確保するとなると人件費問題があり、総合、地域において予算の裏づけが必要

となる。

- ・ 消防には運用をお願いしないのか。
消防でどうしてももらうかは最終的に決まっていない。
- ・ 消防で使ってもらえれば、問題は解決する。
消防に配るということは現在の検討課題である。フォローする体制を考慮していくこととする。
- ・ 8月1日から開始と言うことで、手上げ方式か。
18施設については協議会契約で 아이폰 を配布、以外は個別契約でお願いしたい。月々の使用料に端末の代金も含まれている。協議会をとおして契約して欲しい。
- ・ どうやって広報していくのか。
- ・ 産婦人科医会としては、受け入れ側としてはそのまま進めていただいて、送る側はお産の件数の多い所は 아이폰 で少ない所はパソコンで参画するということにしたほうが早く普及すると思う。説明についてはスズケンに協力してもらう。 아이폰 をわざわざ契約しなくてもパソコンであればすぐできるのではないか。
- ・ スズケンには共同研究として協力して施設をまわってもらっている。
- ・ いつでも応答できるということであったが、実際には手術中であつたりしたときには携行してられない。そういう場合、ナースステーション等においておくことになるため、いつでも答えるというのは当院ではできない。
- ・ 院内 P H S でどうしても行いたいという場合には、そういう実験も行っているので、対応は可能である。
- ・ N I C U の当直中に本当は対応しなくても良いコールにまで反応しなくてはいけないということはないようにしていただきたい。実際に受ける時だけコールを受けるようにしたい。
説明が不足していたが、ホームページ上に一定の入力しておくものは設定予定で、従来の応需情報の更新のように、1日2回応需体制確認メールを送信する設定を考えている。したがって、対応の必要のないコールは無いものと考えてもらってよい。
電話で呼び出すのは緊急だという認識で対応を考えてある。
- ・ N I C U 当直だけでなく、産科当直もそうだが夜中の3時、4時に呼び出されるのは勘弁して欲しい。
いや、愛知県全県下ではそういった事例は1日に1件有るか無いかの話である。N I C U についてはもっと少ない。

(2) 平成22年度専門相談研修会の事業計画について

今年度実施施設

- ・ 総合・地域周産期母子医療センターが、持ち回りで開催することになっている。
- ・ 案内費・会場費・講師料・交通費等を含めて、1回の開催費用として18万円の予算を計上している。
- ・ 今年度の開催施設は、名古屋医療圏・尾張中部医療圏(名古屋市立西部医療センター城北病院、名古屋第二赤十字病院、名古屋第一赤十字病院)、尾張西部医療圏(一宮市立市民病院)、海部医療圏(海南病院)、西三河北部医療圏(トヨタ記念病院)、東三河北部・南部医療圏(豊橋市民病院)の7施設、よろしくお願いしたい。
- ・ 例年9施設ぐらい実施いただいているが、予算が昨年度より1割ほど減額されている為、年度の最後のほうになると予算が足りなくなることも予測されるので、既に予定を立てている施設については、

早めに事務局に連絡をいただき、拠出費用の確保をお願いしたい。

- ・ 海南病院から 9 月 18 日、トヨタ記念病院から 1 月 29 日に予定しているとの申し入れ有。

今後の開催予定

- ・ 名古屋第一赤十字病院（名古屋医療圏・尾張中部医療圏）主催で平成 22 年 6 月 12 日（土）に「母体搬送・新生児搬送応需情報新システム」と題して研修会を開催予定。分娩取扱施設宛に案内状を送付しているが、興味があれば参加をお願いしたい。
- ・ 平成 22 年 7 月 3 日（土）には愛知県心身障害者コロニー中央病院（尾張医療圏）主催で新生児心肺蘇生法「専門」コース講習会（Bコース）を開催予定。申し込み受付は終了。

新生児心肺蘇生法インストラクターコース参加の交通費補助

- ・ 今年度も、新生児心肺蘇生法インストラクターコース参加の交通費補助を実施する。
- ・ 補助としては、1 回 10 万円で年 3 回までの予算を計上している。
- ・ 別紙「新生児心肺蘇生法インストラクターコース」参加の交通費補助の申込書を添付してある。
- ・ 申し込みフォームが必要であればメールでお送りするのでお申し出ください。
- ・ 別紙資料のとおりインストラクター名簿を添付してある。
- ・ いろいろな調査の中で蘇生法講習会を行っているかという項目があるので、インストラクター名簿によりその確保をしていただき、講習会の開催をお願いしたい。

研修会報告書について

- ・ 別添 2 - 5 の資料に報告書を添付してあるので活用願いたい。

(3) 平成 22 年度愛知県周産期医療調査・研究事業の事業計画について

- ・ 今年度は 3 題となっている。

【愛知県における妊娠関連脳血管障害および分娩時高血圧管理に対する実態調査】

名古屋第一赤十字病院 総合周産期母子医療センター 石川 薫

大野レディースクリニック 院長 大野 泰正

- ・ 5 月 13 日にアンケートを送付してもらい、回収率は 40% の状況。子癇症例が 34 例あり、幸い死亡例は無し。脳血管障害症例が 9 例で自宅での発症が 3 例とあり、搬送の問題も考えなければならない。
- ・ ほかに 16 項目の調査項目があり、100% の回収率でないといけないので、未回答の施設の先生にあっては、ぜひ回答をお願いしたい。

【愛知県における平成 21 年の妊産婦死亡の実態調査と検証】

名古屋第一赤十字病院 総合周産期母子医療センター 石川 薫

名古屋市立大学大学院医学研究科 産婦人科 鈴木 佳克

- ・ 近々にアンケート調査を行う予定であるが、愛知県内でもかなりの妊産婦の死亡は発生しているので、重要な調査になると思う。

【携帯電話を用いた周産期患者の応需搬送に関する病診・病病連携調査研究】

名古屋第一赤十字病院 総合周産期母子医療センター 石川 薫

名古屋大学大学院医学研究科医療システム管理学寄附講座 准教授 杉浦 伸一

- ・ 質問等あればいつでも修正対応するので、よろしく願いたい。

(4) 平成22年度特別講演・調査研究報告会の事業計画について

- ・ 特別講演会については、予定が立っていない。
- ・ 調査研究報告会については、各市大の鈴木先生、名古屋大学の早川先生にお願いすることとし、早川先生にはスケジュール等のちほどご教示願いたい。
- ・ 特別講演会の講師の推薦があれば、願いたい。
- ・ 秋口か、学会のシーズンになるので年末かどちらかで開催したい。
- ・ 一つ提案であるが、重症心身障害児をテーマとして講演会をお願いしたらどうか。よろしければ、事務局で取り進めてもらう。もし、提案があれば、お申し出願いたい。

(5) その他

「名古屋第一赤十字病院総合周産期母子医療センター平成21年度総括(産科部門)」報告

- ・ 制限をかけているが、分娩件数は1,400件ぐらいである。母体搬送は300件で、新生児の搬送では聖霊病院にかなりお世話になっている。ただ、あまりいい状態ではない。改善していかななくてはいけないと考えているが、今後ともよろしく願いたい。

【質疑応答】

- ・ 36週未満を早期産数と表現しているが、公的調査では37週未満を早産としているので、表現を合わせたほうが良いのではないか。

承知しているが、従来からこのように表現している。37週とするととんでもない数になる。

- ・ 母体搬送件数が341件で母体搬送分娩数が248件となるのはどうしてか。

搬送された全てが当院で分娩するわけではなく、落ち着いたら搬送元に戻ってもらっているし、産褥搬送等も含めているし、流産も多数ある。

「名古屋第一赤十字病院総合周産期母子医療センター平成21年度総括(新生児科部門)」報告

- ・ NICU部門も頑張っているが、1,500gまでの児の数が90を超え、100近くになっており、ギリギリの状態を維持している。その為アウトボーンの入力が26人ほどとなっており、近隣の先生方には大変ご迷惑をお掛けしている。引き続きご協力をお願いしたい。

- ・ 義務ではないが、名古屋第二赤十字病院でも入院総括をこのように取りまとめて欲しい。

<次回医療協議会開催について>

* 平成22年度第2回周産期医療協議会を、平成22年10月29日(金)「名古屋第一赤十字病院 内ヶ島講堂」にて開催します。